

平成27年（2015年）9月15日外部評価実施

柴原地域包括支援センター（北西部圏域）

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴

総人口：71,051
高齢者人口：16,108
高齢者率：22.67%

北西部圏域は人口7万人を超え、高齢者人口も1万6千人と市内で一番大きな圏域となっています。圏域内に市立豊中病院があります。

センターの取組方針や特徴

センターの取組のキーワードを「連携」とし、「少路・柴原あんしんプロジェクト」において医療と介護の連携、「柴原オレンジプロジェクト」において地域住民と医療の連携に取り組んでいます。

また、今年度は、「認知症」を重点目標として地域教室の開催などにより、認知症の予防・早期発見・見守りなどの意識向上に取り組んでいます。

柴原かがき広場（地域教室）を地域住民に向けたセンターの周知、情報発信、情報収集の場としています。

介護支援専門員勉強会を、ケアマネジャー同士のつながりの場、開業医、医師の連携の場として取り組んでいます。

総評

【特に評価の高い点】

●事業計画について

事業計画は職員全員が参画して作成し、事務所内に掲示し、計画に添った事業運営ができるように、目標や活動方針を具体的に立てています。定例会議や毎朝ミーティングで事業計画の進捗状況を確認しています。

●総合相談について

「総合相談一覧表」を作成し、朝礼で情報共有をしています。「総合相談一覧表」は、重要なポイントを把握できるものになっており、短時間でいかに情報共有するかについての工夫が見られます。

●職員研修について

職員の資質や求められる専門性の向上を図るために「キャリアラダー」を作成し計画的に取り組んでいます。

●緊急対応について

緊急対応では「緊急性の判断レベル」を文書化することにより明確にし、判断レベルを統一してチームで対応することとしています。

●介護予防事業について

基本チェックリスト未返信者訪問において、当該未返信者に会えない場合に、詳細に情報収集（住環境の確認、近隣住民への聞き取りなど）した上で適切にフォローしています。

【特に改善を求められる点】

●人員配置について

人員基準を早急に満たすことが求められます。